

# 木になる紙



## シンポジウム

1枚の紙から考える森林・地域・循環

●コーディネーター

鹿児島大学農学部教授

遠藤 日雄 **基調講演**

「人工林と木材事情」

●パネラー

九州森林管理局 計画部長

宮城 勇朗 **報告2**

「木になる紙の取り組み」

小国町森林組合

築瀬 和彦

くまもと温暖化対策センター 理事長

宮原 美智子

松下生活研究所 代表

松下 修 **報告1**

「日本で使われている紙について」

2010年  
**10月23日(土)**

13:00～受付開始

場所／熊本県青年会館 201会議室  
【熊本市水前寺3丁目17-15】

〔主催〕「国民が支える森林づくり運動」木になる紙実行委員会  
〔協賛〕(株)ファイル 新生紙バルフ商事(株) (株)山櫻  
松下生活研究所九州森林管理局  
「国民が支える森林づくり運動」推進協議会

戦後植林された日本の人工林は伐り時を迎えています。しかし様々な問題から間伐は進まず、それに伴い山の生活はたいへんきびしい状況にあります。身近に豊富な資源がありながら、一方では、日本は海外から紙の原料となるバルブを安く大量に輸入しています。中には天然林も含まれており現地で問題になっている地域もあります。現在、私たちがものを買うときの判断基準はほぼ価格になっています。これまでの社会では生産性や経済性を重視するあまり、つながりやそこてくらす人の気持などを置き去りにしてきたのではないのでしょうか。私たちはこれから身近な山に目を向け都市と農山村をつなぐあたらしい消費のあり方を考える必要があります。木になる紙は間伐材を利用して作られており、購入していただくと山にお金を還元する仕組みになっています。消費者として取り組めることを一緒に考えてみませんか？

定員100名

**入場無料**

熊本県青年会館 HP

[http://www.ks-kaikan.com/index\\_pc.cgi](http://www.ks-kaikan.com/index_pc.cgi)

問合せ 熊本市健軍3丁目27・7 松下生活研究所(松下) TEL:096・368・7125 / FAX:096・360・1319

